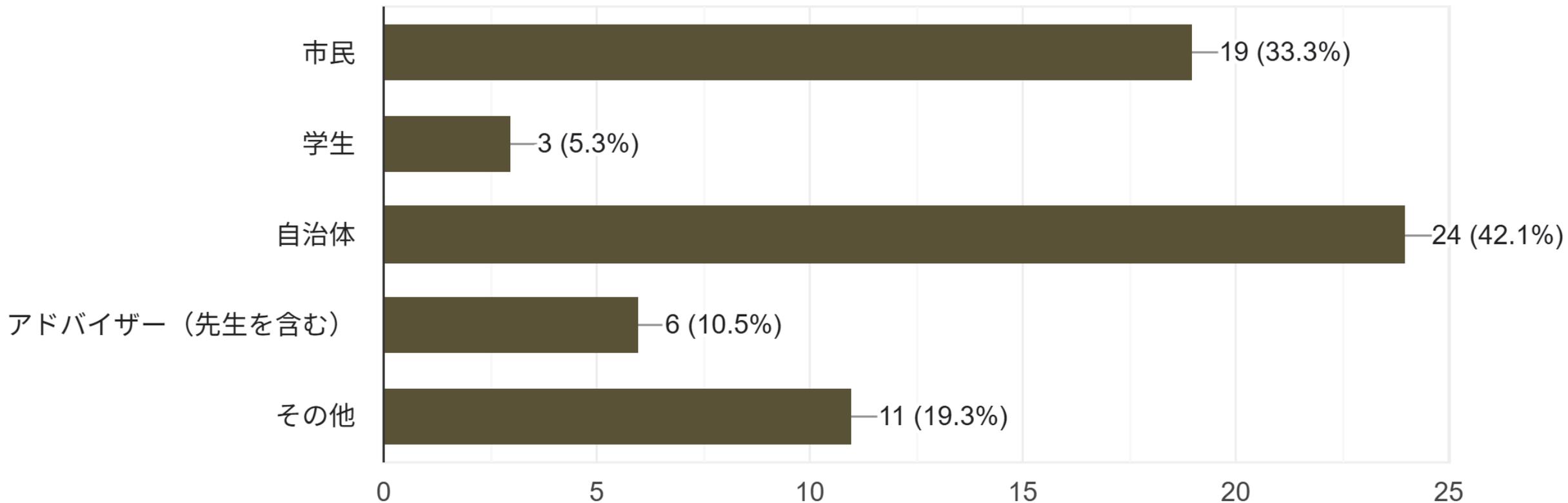


# COG2025 キックオフ アンケート結果（未定稿）

2025年6月22日（日）

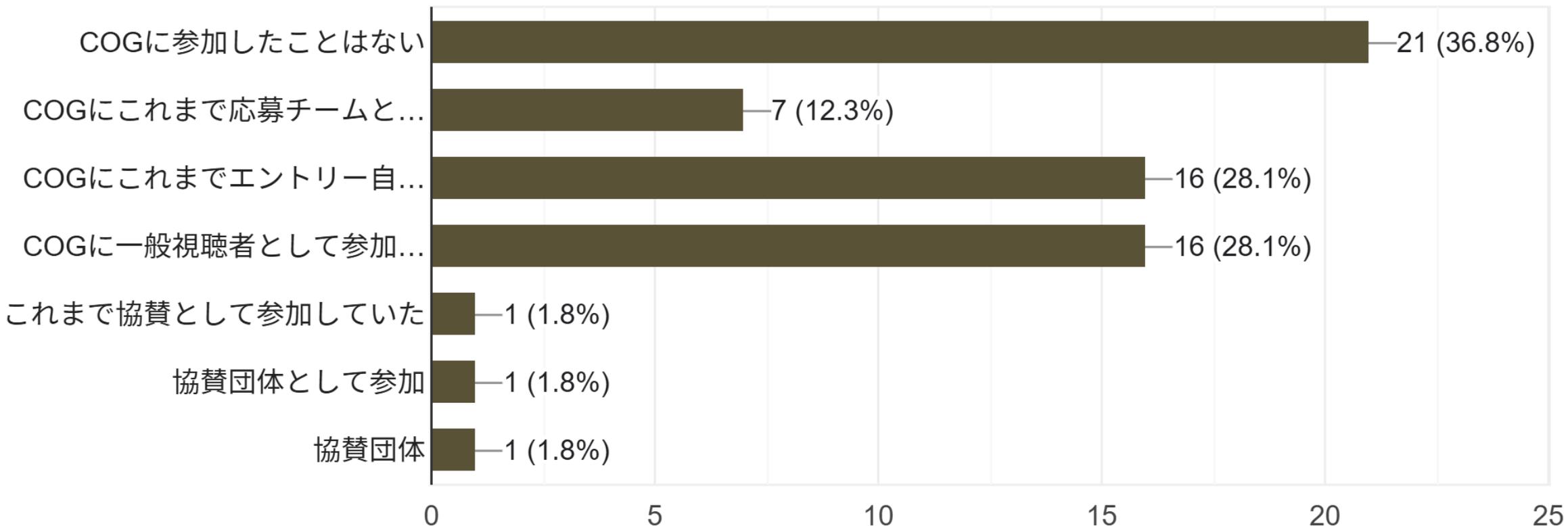
COG事務局 奥村裕一

属性 1 :  
57 件の回答



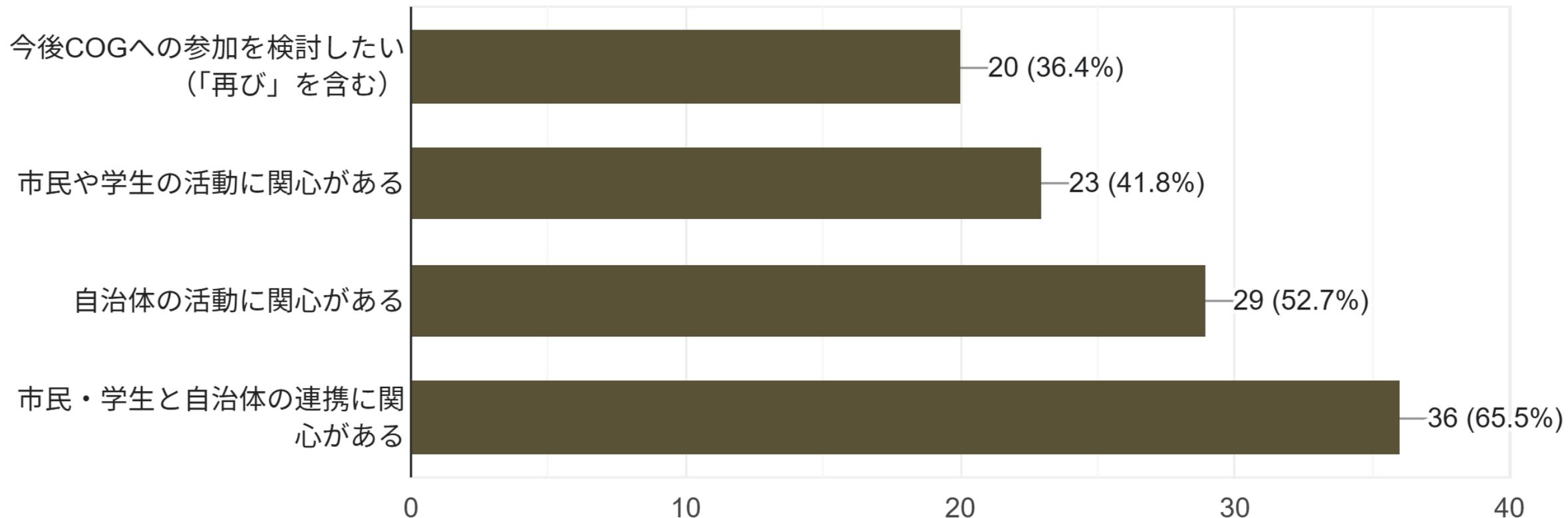
## COGとの関わりをお選びください（複数チェック可）

57件の回答



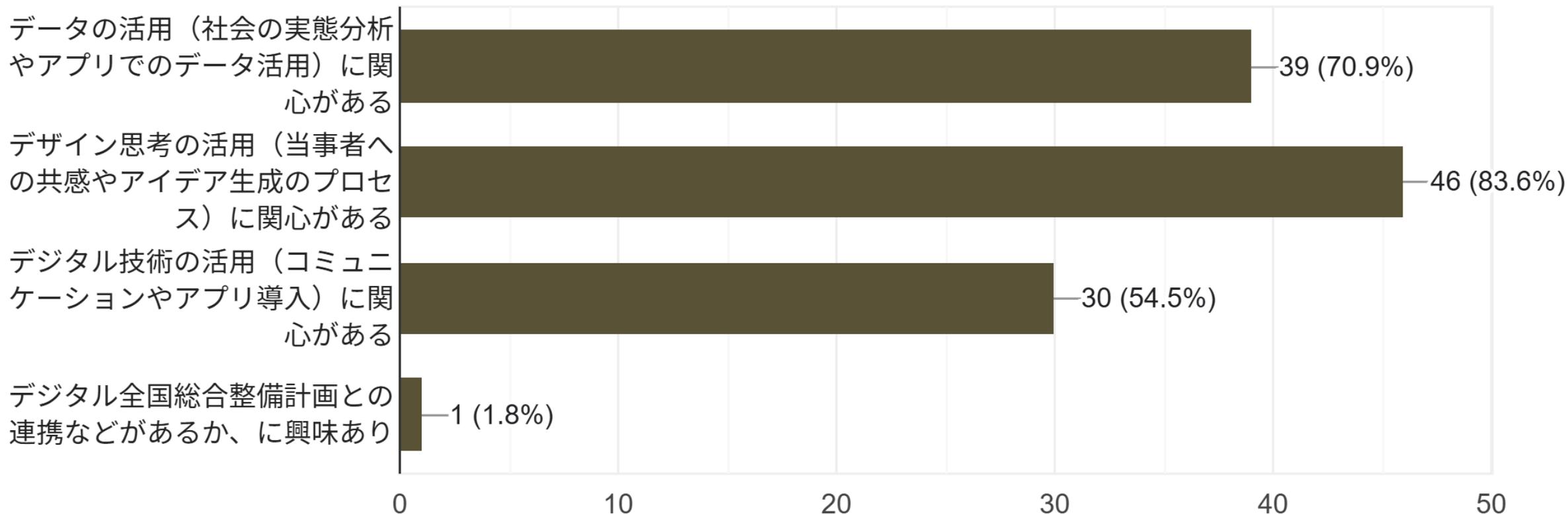
## COGへの関心をお選びください（複数チェック可）

55件の回答

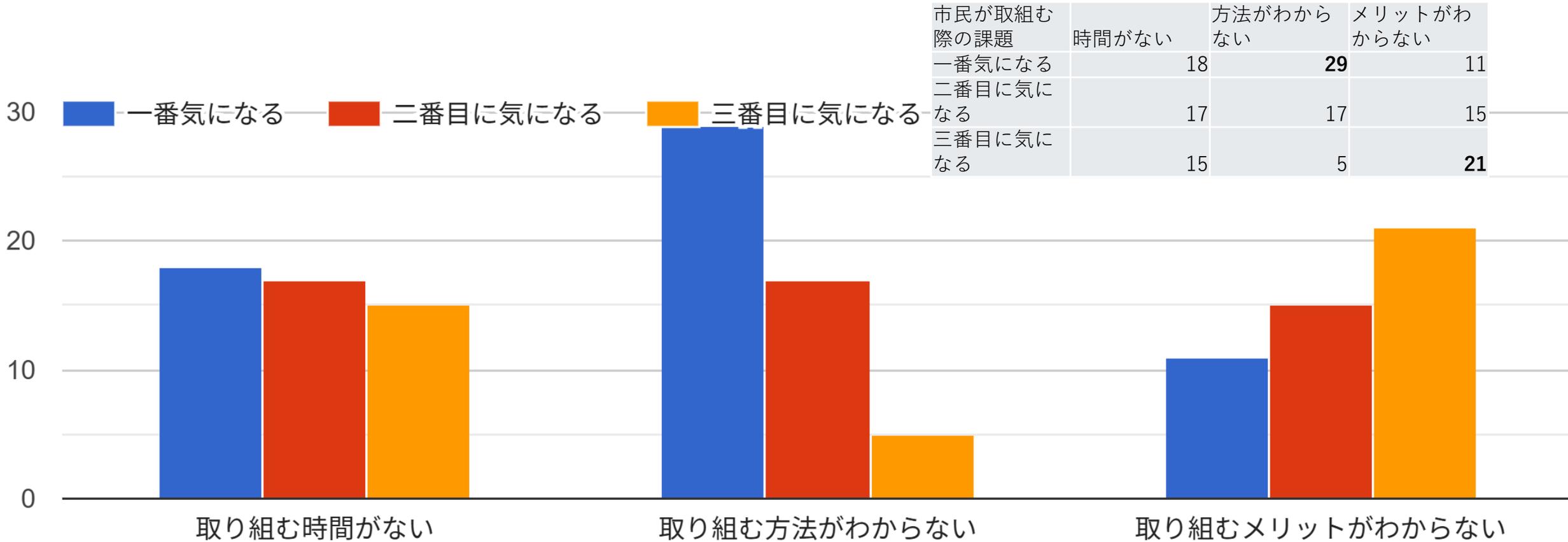


# COGが利用を勧めるデータ活用・デザイン思考・デジタル技術について（複数チェック可）

55件の回答



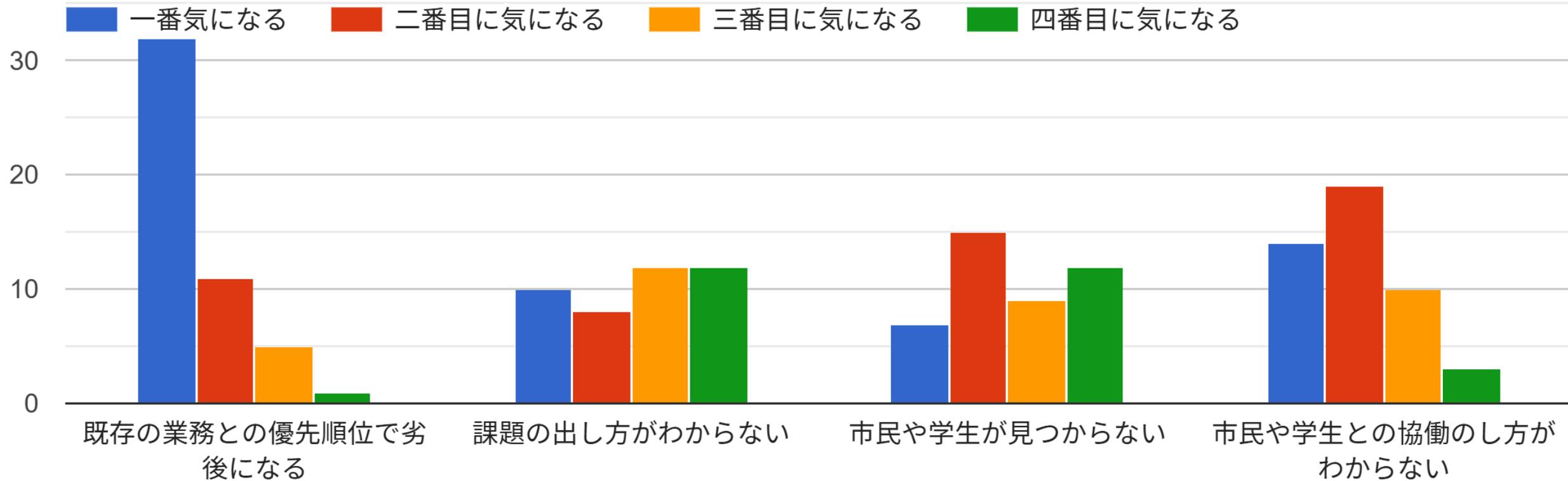
1-1. 市民が一般的にオープンガバナンスに取り組む際の課題は何でしょうか。各行ごとに順位を選んでください。同じ順位でも構いません。



## 2-1. 行政がオープンガバナンスに参加する際の課題は何でしょうか。

各行ごとに順位を選んでください。同じ順位でも構いません。

行政側の課題	優先順位で劣後	課題の出し方	市民や学生の見つけ方	彼らとの協働のし方
一番気になる	32	10	7	14
二番目に気になる	11	8	15	19
三番目に気になる	5	12	9	10



コメントをもとにした  
事務局による仮整理版

# COGの効果的定着への課題整理

【構造的課題】

【認識・意識的課題】

【実践的課題】

【持続性課題】

【解決の方向性】

# 【構造的課題】

## 行政システムの制約

- ・ 従来型行政思考:「平等」重視による画一的対応、縦割り組織による部署間連携の困難
- ・ リスク回避文化:失敗を恐れる組織風土、前例主義による新しい取り組みへの消極性
- ・ 制度的制約:予算・人事・評価制度がイノベーションを阻害する構造

## 社会的基盤の不足

- ・ 地域コミュニティの希薄化:住民同士のつながりの減少、既存の地域組織・ネットワークの弱体化
- ・ 市民参画文化の未成熟:「お任せ民主主義」による行政依存体質、市民の当事者意識の低下
- ・ 中間支援組織の不足:行政と市民を橋渡しする組織・人材の不足、ファシリテーション機能の欠如

# 【認識・意識課題】

## ・行政職員側

- ・ 当事者意識の欠如：職員自身が「市民である」認識の不足
- ・ 市民協働への理解不足：協働の意義・効果に対する懐疑的姿勢
- ・ 専門性への過信：行政の専門知識への依存、市民の知恵軽視

## ・市民・学生側

- ・ 行政への距離感：「お上意識」や無関心による参加回避
- ・ 専門性への躊躇：「素人には分からない」という思い込み
- ・ 地域愛着の希薄さ：特に学生の「学校と家の往復」による地域への無関心

# 【実践的課題】

## 参加ハードルの高さ

- ・ 情報アクセス：専門用語の多用、情報発信の不十分さ(市民)
- ・ 時間・場所制約：平日昼間開催、物理的アクセスの困難(市民)
- ・ 継続負担：長期コミットメントへの不安(市民、行政)
- ・ 行政幹部の意識格差：部長級管理職の理解不足、情報部門以外の管理職の認識不足
- ・ 行政のリソース不足：行政側もゆとりを失っている状況

## 協働プロセスの未成熟

- ・ マッチング機能不足：行政課題と市民関心のミスマッチ
- ・ コミュニケーション手法：効果的な対話・議論の場づくり技術不足
- ・ 成果の見える化不足：取り組みの効果・価値の可視化困難

# 【持続性課題】

## 資源・体制の課題

- ・ 予算・人材不足：継続的な事務局運営、専門人材の確保困難
- ・ 評価システム未整備：効果測定手法、成功指標の不明確さ
- ・ 制度化の困難：一過性イベントから恒常的仕組みへの転換障壁
- ・ アイデア実現プロセス不足：良いアイデアが出ても実現に至らない

## 拡張・継続の課題

- ・ 属人性への依存：特定の熱心な個人への過度な依存
- ・ 横展開の課題：成功モデルの他地域・他分野展開へのリソース不足
- ・ 世代交代対応：人事異動・卒業による知識・関係性の断絶

# 【解決の方向性（事務局試案）】

## ・ 短期的アプローチ（1-2年）

1. 小さな成功体験の積み重ね：自発的参加による達成感の創出、トップの説得は体験共有から
2. 身近な課題からのスモールスタート
3. 既存ネットワークの活用（大学、NPO、企業等）

## ・ 中期的アプローチ（3-5年）

1. 行政文化の転換につながる行政改革（成功体験の全庁展開、市民参加を前提とした業務プロセスの再構築）
2. 地域コミュニティの再構築（裃を脱ぐ多様な対話の場の育成）
3. これらを支える中間支援組織の育成・強化

## ・ 長期的アプローチ（5年以上）

1. 市民協働の制度化・標準化（特別な取り組みから日常業務への転換）
2. 現場主導の政策企画と執行（実情に即したきめ細かく応答性の高い政策推進）
3. 持続可能な社会システム（マネタイズ、ビジネス化含む）